

輸入粗飼料の情勢

全酪連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

米国西海岸における北米西岸港湾労組（ILWU）と雇用主団体（PMA）の労使交渉は暫定合意となっていました。現地8月31日に北米西岸港湾労組側の投票において75%以上の賛成があったため正式合意となりました。

カナダ西岸港湾労組（ILWU CANADA）と雇用主団体（BCMEA）の労使交渉については7月30日に暫定合意に至っています。バンクーバー港は通常稼働となっていますが、ストライキの影響は大きく、現在も港湾の混雑が続いておりスケジュールの遅延が発生しています。

コンテナ船の状況については秋口以降、例年、農作物の出荷や米国クリスマス商戦、冬季の荒天の影響を受け船腹の逼迫やスケジュール遅延が起きやすいため、今後の動向には注視が必要です。

ビートパルプ

【米国】

23-24年産ビートは生産の遅れがあった地域を除き、8月中旬より収穫と製糖作業が各地で開始されています。8月中旬までは適度な降雨もあり生育には理想的な天候だったものの8月下旬より暑く乾燥した日が続いたため、生産量は減少する予想となっています。

産地相場については、新穀の生産を待っている段階であり、輸出向けや米国向けの需要動向に変化はなく、依然として産地相場を見極める状況が続いています。

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンの南部では3番刈の収穫作業は終了、中部から北部でも収穫作業は終盤戦を迎えています。23年産は1番刈の収穫以降、断続的な降雨もなく天候に恵まれたこともあり例年より早い収穫進捗が続いています。そのため2番刈については過乾燥なものもありますが、色目の鮮やかな品質が多く、低級品の発生は少なくなっています。3番刈についてはカナダで山火事が再び発生し、煙がコ

ロンビアベースンに流入したことで乾燥に時間が掛かり、一部の地域では降雨被害もあったことから産地全体で上級品の発生は限定的となっています。

日本向けの市場は依然として産地相場を見極める動きが続いていますが、中東向けで高成分を買付する動きがあることや1番刈の上級品を確保出来なかった輸出業者が積極的に買付を始めたこともあり今後の動向には注意が必要です。



コロンビアベースン2番刈りアルファルファ上級品（8月中旬撮影）

オレゴン州

主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは2番刈の収穫作業が終了しています。8月下旬から3番刈の早い圃場で収穫作業を開始していますが、降雨があったため雨あたり品が発生する見込みです。今後9月に入り収穫作業は本格化しますが、降雨の影響と収穫進捗が遅れていることから3番刈で生産を終了する圃場も多くなる予定です。2番刈の品質については、1番刈の収穫時期が例年より遅くなったことから1番刈で刈り取れなかった茎が残った圃場もあり、例年よりも色目の鮮やかな品質は限定的となっています。

同州クリスマスバレーにおいても2番刈の収穫作業は終了しています。一部の圃場では降雨被害が出ているものの、高成分の良品も発生しています。



(23年産オレゴン産2番刈アルファルファ 8月下旬撮影)

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在6番刈の収穫が行われています。産地では4番刈以降、成分値が低く茎が細い過乾燥気味なサマーハイ中心の発生となっています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、8月15日時点でのアルファルファの作付面積は136,028エーカー（前年同期は123,366エーカー）と前年同期比110%と増加しています。

ネバダ州

ネバダ州北部ウィナムッカでは現在2番刈の収穫作業が終了し、3番刈の収穫作業が9月上旬より始まる見込みです。同州は1番刈では降雨被害を受け、2番刈ではコオロギの異常発生によりアルファルファに被害が出たことから輸出向けには適さない品質が多く発生しています。

米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースン南部では2番刈の収穫が終了していますが、中部および北部では収穫作業中です。

23年産の1番刈は収穫期の不安定な天候の影響で上級品の発生は限定的となっています。23年産の価格が下落したことで不満を抱える生産農家も多く、昨年と比べて半数近くの生産農家が2番刈を行わず相場の良い豆類やとうもろこしといった換金性の優れる作物に転作を進めています。

産地相場については輸出業者によって旧穀在庫や23年産の買付進捗が異なることもあり未だに状況を見極めている動きが続いているため、今後の動向には引き続き注

視が必要です。

スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫が終了し9月下旬には2番刈の生産を終える見込みです。

同州では8月下旬に発生したハリケーン「ヒラリー」の影響で、保管中のスタックや収穫中のスーダングラスに降雨被害が発生しました。降雨被害の全貌は見ていませんが、23年産の作付面積減少に加え、降雨被害により高温の夏時期や2番刈に多く発生する茎が太い低級品は限定的となる見通しです。日本の需要に対しては輸出業者も旧穀在庫を抱えているため供給力に懸念はありませんが、ハリケーン被害による産地相場の上昇については注視が必要です。

灌漑局の発表によると、8月15日時点での作付面積は16,022エーカー（前年同期は34,109エーカー）、前年同時期比47%となっています。



ハリケーン「ヒラリー」による降雨被害の状況

（左）浸水したヤード

（右）降雨被害スタック 8月下旬撮影

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、3番刈の収穫が終了し、一部の圃場では4番刈の収穫作業が開始されています。収穫された3番刈の品質は2番刈同様に色目が綺麗な良品が多く発生しています。未収穫の3番刈についてはハリケーン「ヒラリー」の降雨被害もあり、適期に刈取りを行うことができず、刈遅れの品質が多く発生する見込みです。

例年クレイングラスは5番刈まで生産されますが、23年産は価格軟化の影響を受け4番刈で生産を終了する圃場も多くなる見通しとなっています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、8月15日時点でのクレイングラスの作付面積は21,996エーカー（前年同期19,653エーカー）となっており、前

年同時期比112%と増加しています。

バミューダ

主産地であるカルフォルニア州南部インペリアルバレーでは、3番刈の終盤を迎えています。産地では米国内の馬糧向けや韓国向けに堅調な引き合いがあることから荷動きは好調で、収穫は5番刈まで行われる見通しとなっています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、8月15日時点の作付面積は66,693エーカー（前年同期63,968エーカー）と前年同期比104%の作付面積となっています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、23年産のストローの生産が終了しています。例年に比べ降雨が少なく土壌中の水分が不足した影響で生産量は減少しています。

カナダ産チモシー

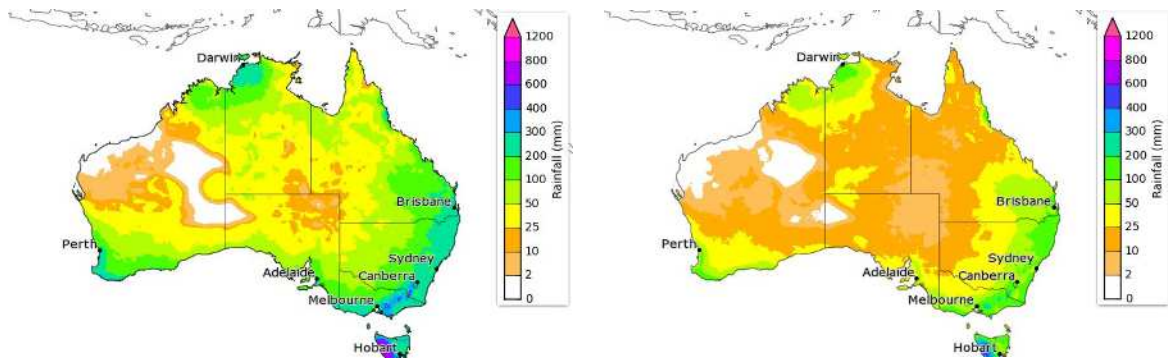
主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では、1番刈の収穫が終了し、2番刈の収穫が開始されています。現時点で相場は形成されていませんが、国内の干ばつの影響でカナダ国内の酪農家からの需要も多く、価格は堅調に推移する見込みです。

同州中部クレモナ地区では乾燥した気候が続いた影響により生育が不安定となり収穫された品質は中低級品の発生となり上級品の発生は限定的となっています。

豪州産オーツハイ

今後の天候次第では9月中旬頃からスケジュールの早い地域で収穫が開始される見通しですが、8月も豪州全域で平年より乾燥した気候が続いており、西豪州では例年の4割程度しか降雨がなく、高温かつ乾燥した気候で生育不良となっているため生産量の減少が懸念されています。

下図は豪州の気象庁による平年9月から11月の降水量と23年9月から11月の降水量予測ですが、3ヶ月を通して10mmから50mmの降水量予測の地域も多く、平年を下回る降水量になることが予想されています。



出典：The Australian Bureau of Meteorology より

(左) 平年9月-11月までの降水量

(右) 23年9月-11月までの降水量予測

以上